

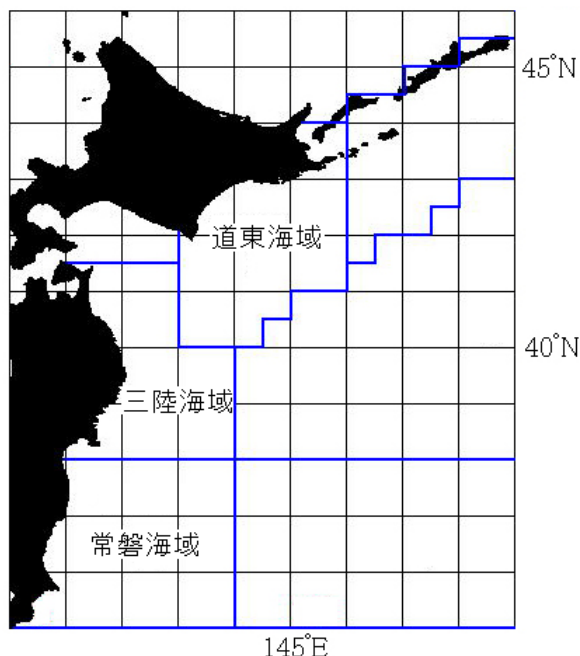
平成23年度 第5回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2011年10月下旬～12月上旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、来遊量はゆるやかに減少し、10月下旬は低位水準となる。
- ・三陸海域では、来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬は中位水準となる。
- ・常磐海域では、来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬は断続的ではあるが来遊がある。
(但し震災の影響により操業が行われるか不明である)



問い合わせ先

社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/index.html>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成23年度 第5回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2011年10月下旬から12月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量はゆるやかに減少し、10月下旬は低位水準となる。11月中旬には断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月下旬～11月上旬の主漁場は、厚岸～襟裳岬沖である。11月中旬は、襟裳岬沖に断続的ながら漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬～11月中旬は中位水準となる。11月中旬から減少し、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場

10月下旬～11月中旬は北部～南部にかけて漁場が形成される。11月下旬～12月上旬は、三陸北部の漁場が消滅し、南部に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬は断続的ではあるが来遊がある。11月中旬まで低位水準で推移するが、11月下旬～12月上旬は中位水準となる。

(2) 漁場

現在、業界の自主規制として、福島第一原子力発電所より半径100km圏内を操業禁止としている。

2. 予測の概要

| 海 域 | | 10月下旬 | 11月上旬 | 11月中旬 | 11月下旬 | 12月上旬 |
|------|-----|---------|---------|-------|-------|-------|
| 道東海域 | 来遊量 | | | | | |
| | 動向 | 低位減少 | 低位減少 | 断続的 | | |
| | 漁 場 | 厚岸～襟裳岬沖 | 厚岸～襟裳岬沖 | 襟裳岬沖 | | |
| 三陸海域 | 来遊量 | | | | | |
| | 動向 | 中位増加 | 中位水準 | 中位減少 | 低位減少 | 低位減少 |
| | 漁 場 | 北部～南部 | 北部～南部 | 北部～南部 | 南部 | 南部 |
| 常磐海域 | 来遊量 | | | | | |
| | 動向 | 断続的 | 低位増加 | 低位増加 | 中位増加 | 中位水準 |

3. 漁況の経過概要（10月上旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、9月下旬より増加したものの、前年並みの中位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

落石南東～厚岸大黒島沖と、襟裳岬沖に漁場ができた。落石南東90海里付近～厚岸大黒島南沖35海里付近（表面水温：12～15℃）では、連日大型船と小型船が操業した。漁場位置は、期前半は落石南東～南沖であったが、7日夜以降は厚岸大黒島南沖まで広がった。大型船で10トン～100トン以上、平均で50トン程度漁獲された。小型船は満船となる船も多かった。

落石南南東180海里～厚岸大黒島南120海里付近（表面水温：13～16℃）では、連日大型船が30隻程度操業した。10トン～100トン以上、平均で65トン程度漁獲された。

襟裳岬南90海里付近（表面水温：14～15℃）では、5日夜以降、大型船が5～10隻程度操業した。数トン～100トン以上、平均で40トン程度漁獲された。

(3) 魚体

30～31cmモードの大型魚主体であったが、26～27cmモードの中型魚がやや多く混じる時もあった。体重は140～160g台が主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、9月下旬より増加したものの、前年並みの低位水準であった。

(2) 漁場

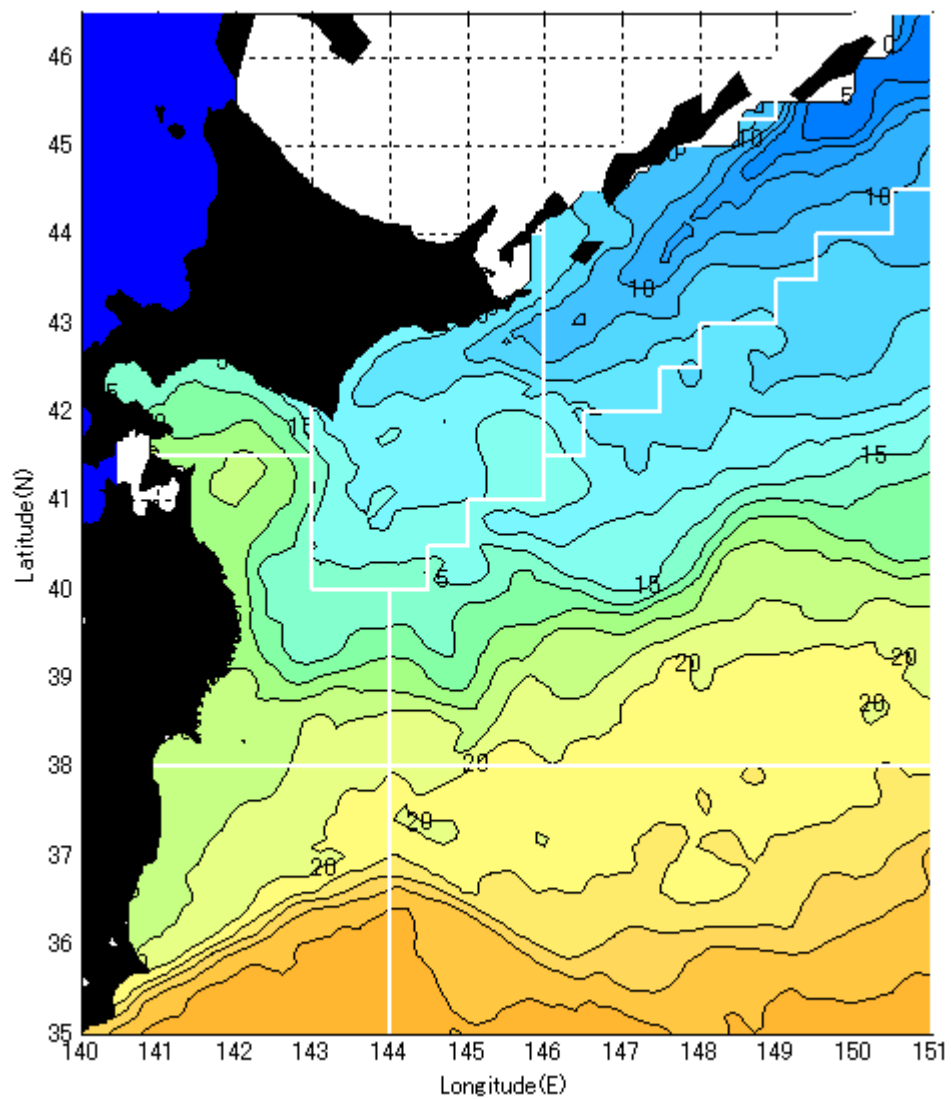
4日夜および5日夜に宮古北東～東北東沖の50海里付近（表面水温：15～16℃）で、大型船が数隻操業した。100トン以上漁獲する船もあったが、10トン程度の船もあった。

(3) 魚体

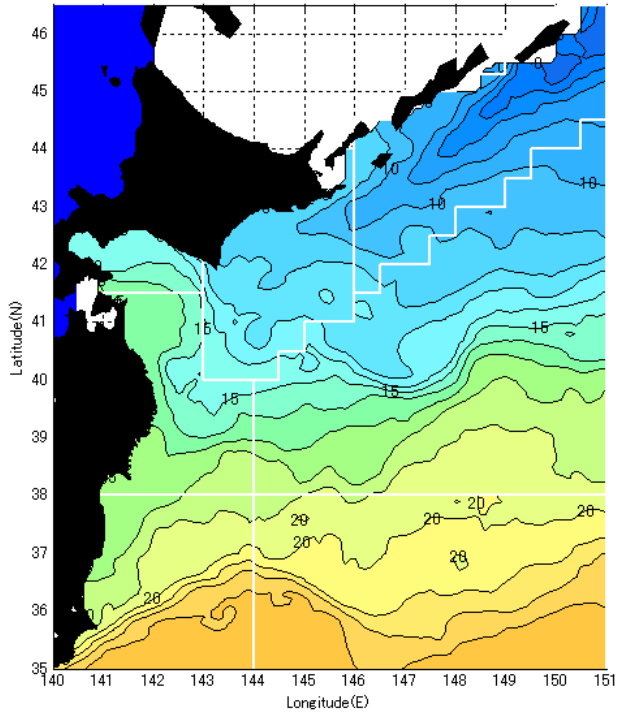
30～31cmモードの大型魚主体であった。

4. 予測水温分布図

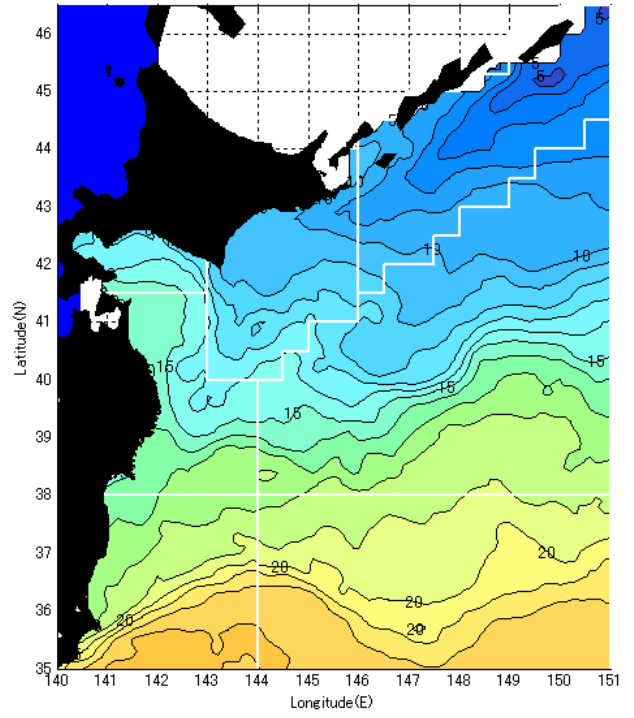
10月下旬予測表面水温分布図



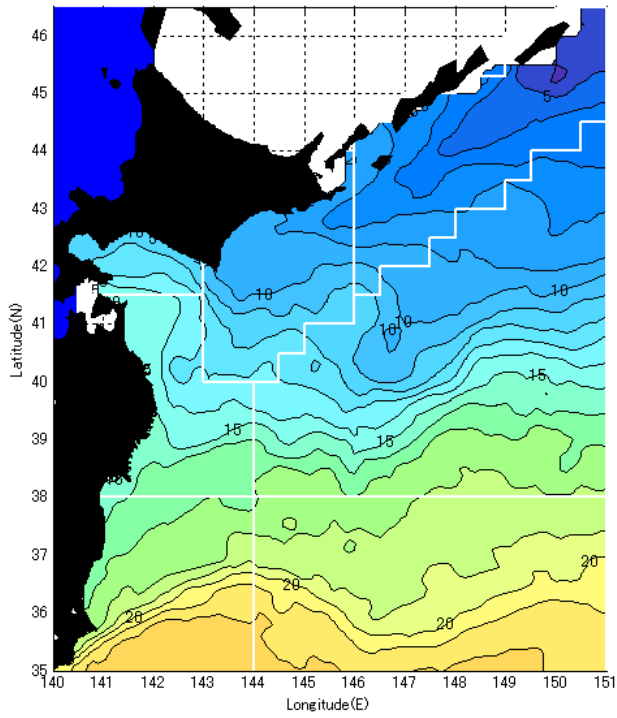
11月上旬予測表面水温分布図



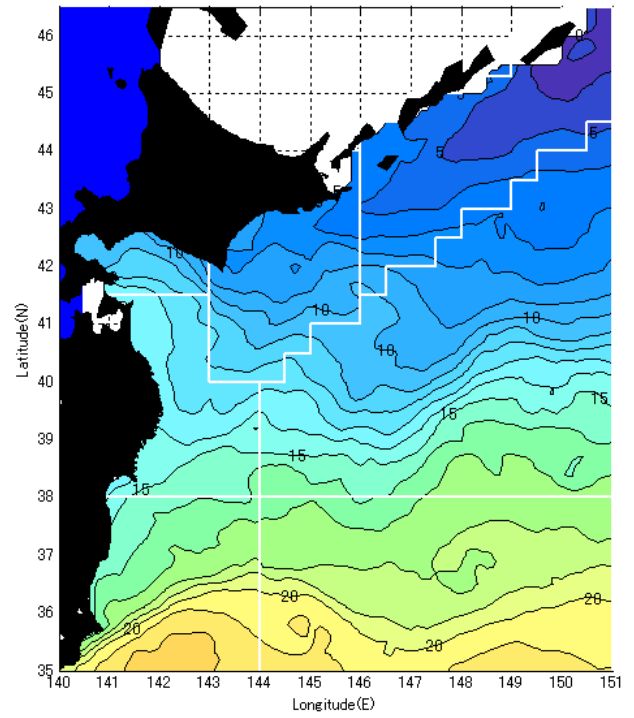
11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図



12月上旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

| | |
|---|--|
| <p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p> | <p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p> |
|---|--|